

中国大学生が製鉄所見学・ホームステイ体験 — 新日鉄北京事務所 / 中国日本商会の訪日事業の一環で招待

中国に進出している日本企業にて組織される中国日本商会(当社北京事務所長の小谷勝彦が副会長を務める)では、中日友好協会などの中国側機関と協力して、特に中国の若い世代に対する日中の相互理解と友好・親善の促進を目的に、本年度より5年間にわたり中国大学生の訪日招待事業を行うこととした。

本事業は「走近日企・感受日本」(日本企業に触れ、日本を感じよう)と名付けられて、大学生を日本に招き、同会会員企業の日本の工場や研究所の見学、地方の視察、大学訪問、会員企業の社員宅でのホームステイなどを行う。

第1回目の本年は北京の大学から選抜された27名の大学生と関係者の計32名が5月28日から6月6日まで来日し、当社では君津製鉄所見学および当社社員2人の家庭に加えて当社顧問の阿南前中国大使宅でホームステイを体験した。また、一行は安倍首相夫人や王毅中国大使とも面談した。

君津製鉄所では、高炉・熱延工場、プラスチックリサイクル工場を見学して、大学生は真っ赤な鋼板が圧延される様子やコークス炉を利用したプラスチックリサイクル設備の説明に驚きながら見入っていた。

また、当社関係者宅でのホームステイでは、温かい交流が行われ、印象深い体験となった。



君津製鉄所 第4高炉前



プラスチックリサイクル工場で説明を聞く

ホームステイ体験学生 リシャオイン 李曉音さん

池田さんの家では、お子さんから絵をプレゼントされ、家族の一員として温かく受け入れていただき感激しました。また犬を連れて近所を散歩しましたが、中国とは異なる郊外の様子に興味を惹かれました。

ホームステイ受け入れ 上海宝山冷延・CGLプロジェクト班マネジャー 池田 禎尚

初めて会った李曉音さんは、日本語で語りかける私に困った顔で“Do you speak English?”名簿に日本語科とあったのは誤りで、話せるのは今回覚えたあいさつだけでした。それでもわが家では子どもたちとボディランゲージで不思議な会話を繰り広げ、ゲームや折り紙を楽しんでいました。テレビでドラえもんが始まると「あ!ドラえもん!!私も大好き!!」食後の和菓子の中にどら焼きを見つけ、「ドラえもんのご飯!」通訳すると子どもたちも大喜び。改めて日本のソフトパワーに感謝しました。異文化は、実際に触れて初めて実感できるもの。それが自国についての考察にもつながります。今回は「ホームステイ先の提供」でしたが、わが家にとっても新鮮で啓発される24時間でした。知らない人を家に泊めるのはちょっと不安もありますが、中国日本商会の活動なら安心です。子どもたちはもう次の機会を楽しみにしています。



池田宅でのホームステイの様子



新日鉄北京事務所マネジャー 扇 常夫

2005年4月の反日デモに象徴されるように、日中関係は一時期ぎくしゃくしていましたが、当時中国日本商会内で、民間企業として何かできることはないかと議論し、「日本をより理解してもらうためには実際の日本を自分たちの目で見てもらうのが一番」という結論を得たのが本事業の原点です。私は事務局の一員として本事業に参加しましたが、訪日にあたり、大学生の選抜方法、資金管理、スケジュール調整、訪問企業選定、ホームステイなどについて約10回にわたるワーキンググループの会合や分科会を通じて検討を重ねました。実施までには紆余曲折がありましたが、各社日本側の協力を仰ぎながら総力を結集し、最終的には密度の濃い内容になったと自負しています。

6月5日の君津製鉄所訪問では、工場見学のみならず、1978年の鄧小平氏訪問時の揮毫を見ていただきましたが、鄧小平氏の君津訪問およびその後の当社の協力が、後の宝山製鉄所の建設、中国鉄鋼業の発展につながったことを実感してもらえたのではと思います。

参加した大学生は今回の訪日で学ぶところも多かったと思います。また日中メディアの関心も高く多くの新聞、テレビで取り上げられるなど大きな反響がありました。次回以降の訪日についてもより密度の濃いものにしたいと思います。

